

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	グローバル人材育成のためのイタリア学校臨床実習	
学部・研究科名	教育学部・教育学研究科	
プログラム実施期間	2019年11月23日～12月1日（一部参加者は11月16日に出国）	
研修先(国・都市・施設名)	イタリア (1) International Loris Malaguzzi Center、(2) Centro Verde Rosa Galeotti (3) Spazio Culturale Orologio、(4) Remida, il Centro di Riciclaggio (5) Elisa Lari、(6) Musei Civici Reggio Emilia (7) APS TUTTI FUORI	
参加学生数	9名	知の森からの支援者数 6名
プログラム概要	教育のグローバル化が本格的に到来し、教員にもより広い視野が求められている。教育学部や教職大学院を出た学生は、地域の中核的な教員になることが期待されている。本プログラムでは、世界的に著名な幼児教育を展開するイタリア・レッジョエミリア市の学校及び教育施設を見学することで、グローバルな視野で学校教育に貢献できる人材を育成することを目的としている。レッジョ・エミリアの教育実践は信州教育と親和性が高く、デュイの思想を中核にしているという点で附属松本小学校で行われている実践と同根である。約1週間の滞在中、複数の幼稚園、社会教育施設、博物館等を訪問し、講義やワークショップを通じてレッジョアプローチの現場を体験する。また、学校訪問後にはリフレクションの時間を設け、学習の深堀りや成果のまとめを行う。	

実施状況・成果

本プログラムは、教員志望の学生に海外の先進的な教育実践に触れる機会を提供することで、グローバルな視野をもった人材を育てるという意図から、スウェーデンの学校(幼稚園、就学前学級、小学校、中学校・高校、特別支援学校の段階に当たる)を訪問する研修旅行を企画した。11月25日(月)にはレッジョアプローチの拠点であり、訪問者センターを兼ねるロリス・マラグッチ国際センターでレッジョ・エミリアの幼児教育の歴史、社会的背景、思想、教育観等のレクチャーを受け、子どもたちの作品展示を見学した。11月26日(火)には、レッジョアプローチの認定校であるRosa Galeotti幼稚園を訪問し、幼児教育の実際の現場を見学したほか、ペダゴジスタ、アトリエリスタと実践に関する質疑応答と意見交換を行った。その後、社会教育施設(児童館)と廃材センター(REMIDA)を訪問し、地域ぐるみで幼児教育の実践を支えていることを学んだ。11月27日(水)にはREMIDAで素材を探究するワークショップに参加し、28日(木)と29日(金)には幼児教育施設を訪問した。訪問後には、リフレクションを行い、各参加者が感じたことや我が国への示唆等について話し合い、理解を深めた。レッジョ・エミリアは世界的から訪問者が殺到し、教育活動に支障が出た経験から、現在では市の取り決めにより、訪問者を受け入れていない。今回は特別な伝手を通じて訪問が実現した大変貴重な機会だった。書籍やビデオ等で見る実践概要だけでなく、地域ぐるみで教育を支えている現場を肌で感じる事ができた。廃材センターや児童館、ワークショップを提供する各種教育施設が有機的に連携することで成り立っていることから、長野での実践についても、このような社会運動としての視点を取り入れて展開していくことの重要性を各参加者が実感できた。

学生の声①-教育学研究科(教職大学院)学生

訪問した幼稚園では、子どもを取り巻く家族に対してもケアする点特徴的だった。両親の不仲や兄弟げんか等、家庭内で払拭されなかった感情を引きずって登園する子供たちに対して感情を出してもいいことを伝えていくためにも「感情のプロジェクト」を園全体で行っているとのことだった。こうしたプロジェクトは保護者にも行われていた。家族環境を全て受け入れることで、子どもを取り巻く環境をよくしていくという方針は、単なる家庭と園とのかわりだけでなく地域住民へとつながっていると考えられる。子どもの安定はその子の両親を中心とした家族の安定が不可欠であるように、大人の安定が職場や地域といった様々なコミュニティにおける安定にもつながるのではないだろうか。目の前の子どもだけでなく、その子の背景をも含む教育は並大抵のことではできないが、大人にとって心の支えとなり得る学校づくりという点で参考になった。

学生の声②-教育学研究科(教職大学院)学生

人は決して一人では学んでいない、ということを再認識した。廃材センター(REMIDA)でのワークショップは一人で行うものだったが、同じ空間で他者がマテリアルを光にすかせたり落としたりしているのを見て、同じことを試したくなった。反対に、私が水に濡らしていたのを見た他者が、同じように水に浸している様子もあった。それはごく自然に何度も起こっていた。レッジョ・アプローチの要点に「知識は他者との協働により生み出される」とある。一人では限界があり、それぞれ違う感性を持った他者との協働で、新たな創造が生み出されることを実感した。

B1-レッジョ・アプローチの哲学を学ぶ



B2-ワークショップでビデオ製作に取り組む参加者

